

2024 年度 第 2 回須坂市子ども・子育て会議 議事録(要旨)

開催日時：2024 年 10 月 15 日(木)午後 2 時 00 分～3 時 30 分

場 所：須坂市役所 第四委員会室

出席者：[委員]14 名

豊田委員(会長) / 小林委員(副会長) / 藤田委員 / 青木委員 / 清水委員 / 加藤委員 / 金井委員 / 山口委員 / 横山委員 / 東海林委員 / 宮下委員 / 飯田委員 / 高山委員 / 堀金委員

[事務局]

山岸 教育次長 / 永井 子ども課長兼こども家庭センター長 / 窪田 子ども課子育て政策係長 / 鈴木 子ども課児童保育所係長 / 須田 子ども課児童保育所担当係長 / 宮川 子ども課子ども家庭支援係長 / 小泉 学校教育課児童・生徒支援係長 / 大峽 健康づくり課母子支援係長 / 小林 政策推進課政策秘書係長 / 藤丸 子ども課子育て政策係主査

1. 開会(永井課長)

須坂市子ども子育て・会議条例第 6 条の規定により、全委員数 16 名中現在 14 名出席のため、委員の半数以上となるので会議が成立していることを報告した。

2. 会長あいさつ

3. 会議事項(進行:会長)(◇は委員、◆は事務局の発言)

(1)子ども子育てアンケート結果 ニーズ調査の概要

- ◆子ども子育てアンケートの調査対象についての説明
- ◆子ども子育てアンケートの内容についての説明
- ◆子ども子育てアンケートの回答結果の概要説明

質疑応答(A 委員)

◇資料が膨大であるが、今後どのように議していくのか。

- ◆11 月 15 日を期限として委員からご意見をいただき、委員の意見を踏まえ計画を修正したものを修正版とする。その後、12 月におおよそ 1 か月程度の期間をかけてパブリックコメントを実施、市民からのご意見をお聞きし、それらを反映させて、最終案として 2 月の会議に提示する。

(2)第 3 期須坂市子ども・子育て支援事業計画 素案

- ◆計画の背景・人口推移についての説明
- ◆子ども・子育て支援における現状と課題

質疑応答(A 委員)

◇新たに加わった事業などが、整理されてない。図示できるような、目で見てもここにこういうことがあると

わかればよいと思うので、分かりやすいような工夫がされればなということを思っている。

◆概略図的な部分というのは、お示ししたい。

質疑応答(B 委員)

◇全体のイメージ図や概略図のようなものは、おそらく 1 期のときの冊子には入っていたと思うので、そのようなものも参考にしながら作成していただければと思う。

また、アンケート結果より、公園や遊び場という問題がキーワードとして出てくるのに対して、2 期の計画にはちゃんと入らなかったように感じるが、今期計画に入れていく予定はないのか。

◆素案には入っていないが、他の部局とも追加協議させていただく中で入れられるものがあれば、計画に反映していく。

◇今すぐこれを実施してほしいのではなく、その公園や遊び場の整備を、増やすという以外にも、今あるものがどう整備されているか、またそういうものも含めて、子どもたちの遊び場・居場所というものを是非検討していただきたいと思う。

◆貴重なご意見をいただいたので、現状である部分でどういったところにどういったものがあるか等、積極的にできることがあれば、明記していきたいと思う。

質疑応答(A 委員)

◇アンケートをとり、次はどうしてくれるだろうということは、具体的にきっと期待されていることが住みたい須坂になるものではないかなと書いてある。限られた予算の中で、こうして子育てのためにお金を使っていくことや、10 年かけてこういった須坂にしようじゃないかということを誰がどこで語って決めてくれるのかということを、しみじみ思っている。

◆貴重なご意見としてお聞きさせていただく。これは子育て計画のアンケートであるが、それ以外にも子育てに関する事業というのは、ほかにも、例えば保育園の運営等、様々な全体の事業がある中で限られた財源の中で事業を実施しなくてはならないため、貴重な意見としてお聞きしながら、どういった事業を優先的に実施していくかなどの部分も含めて、事業を実施していくということが重要と考えている。

質疑応答(C 委員)

◇基本目標②「子どもの健やかな育ちを支えるための環境の整備」で、このように確保の内容と数と数字は出しているが、各数字を確保できるのは、現場で働いている保育士・保育園教諭・幼稚園教諭の先生方が働き続けてくれるからこそできる確保の人数だなというように考えている。

一方で働く人たちに対しての何らかの施策というのは、この中では出てきていないのだなというように強く感じている。制度やハードに関しての資金というのは非常に説明のつきやすいものかもしれないが、人に対する投資というものも非常に大事なことであり、保育士の確保・保育教諭の確保というのは、市として何かそういった取組があるのであれば、ぜひこういうところにも盛り込み、環境の整備に取り組んでいただけるとありがたいと思う。

具体的には、例えば、働いている人たちのなかで、カスタマーハラスメントという言葉も浸透し始めているように、働く職員の方々のハラスメントのストレスチェックのような形で、何か負荷を抱えていないのかどうか、あるいは働きがい、実際働く人たちについて、働きやすいのか、働きがいを感じているのかということも見えるようになると、働く人たちが求めているものや、それに対して須坂市としての対

策、また長野市ではない、他の市町村にはない、保育士・保育園教諭・保育教諭・幼児教育に対しての施策を打ち出している、と出していけると、より働く人も集まる須坂市になっていけるのではないかと考えたため、ご検討いただければと思う。

(3)意見交換

D 委員

◇色々な活動というのは、もう決まった役員はそうだが、実際に行事を行うと役員しか出てきていない。行事も様々なものを行い、年間の行事は町によって色々あると思うが、その中で、お祭りや子どものお神輿、8 月には子ども会や育成会とタイアップしてのお楽しみ会ということで、花火や金魚すくいなどを、町の庭で行ったところ、非常に子供たちも喜び、楽しむ様子が見られた。

他の町ではどういった行事があるかは把握していないが、現在は、盆踊りもうるさいとのことでほとんど出来なくなったりし、また子どもたちと親御さんや地域の方との触れ合いというものが、ほとんどなくなっている状況である。昔は子どももいっぱいおり、色々とコミュニケーションが図れたが、最近ではそれも少ないなと思っている。実際に行事を行い、この町にはこういったものがあるということを知ってもらうことも必要ではないかと感じた。

4 事例報告 里親制度について

5 その他

6 閉会